

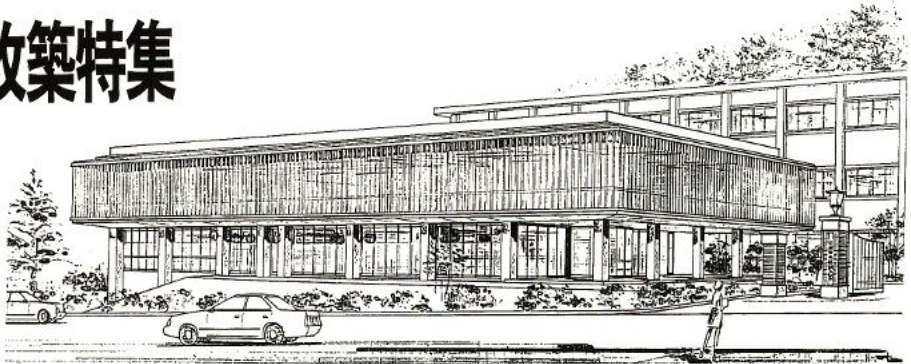


# みすず

## 目次

これからの図書館は	図書館長 丸山 信…………… 1
図書館増改築と新構成について	…………… 2
こころ	飯田 正江…………… 4
「ふみよみ(読書)」の楽しみ	中西 満義…………… 6
絵本との出会い	幼児教育科 2年 赤羽 美保…………… 8
『海と毒薬』と私	国文科 2年 米山いづみ…………… 9
児童文化研究大会に参加して	幼児教育科 1年 沓掛 千春…………… 10
児童賞を受賞して	国文科(平成6年度卒) 藤崎 香織…………… 11
図書館ニュース……………	…………… 12

## 図書館増改築特集



### これからの図書館は

館長 丸山 信

大学図書館は、学生の身近にあって、図書やその他の図書館資料を収集、整理、保存、その提供を通じて学生・教員の学習・研究を支援する役割を担っており、これまで図書の保存を重視してきた館内閲覧を中心とした施設から、レファレンス・サービスの一層の充実を図るとともに、近年、情報化、国際化、高齢化などの発展による社会の急速な変化に伴い、多種多様な資料に関する豊富な知識を備えた有能な司書が

求められている。

施設面でも、単なる本の置場から脱却し、これからの図書館は、「出版物の電子化」、「情報のネットワーク化」などに向かって対処して行かなければならない課題が山積みしている。この意味で図書館増改築は、大変明るいニュースであり、わが大学の一層の発展に寄与するであろう。

## 図書館増改築と新構成について

以前から図書館書庫の収容力が限界に達し、図書館の増築（書庫の増床）を要望してきましたが、この度ようやく実現することになりました。

そこで、図書館では増築と合わせ、今まで手狭だった閲覧室・ブラウジングルームの改造や、不便を感じていたトイレの新設等も合わせて要望しましたところ、ほぼ希望が認められ、次頁のような大きな図書館が新たに誕生することになりました。ここでは、各フロア及び各部屋の構成について紹介します。

### 1. 地下1階書庫（半地下式書庫）

#### ①書庫1階

増築される書庫は、積層で2層の書庫になるため、書庫部分1階は半地下構造になる。 [109.2㎡]

### 2. 1階

#### ①玄関ホール

玄関ホールは従来通りだが、入口には風除室が付く。又、将来館内には、「ブックディテクションシステム」が設置される予定で、図書や資料を無断持ち出しすると警告ブザーが鳴る仕組み。 [18㎡]

#### ②ブラウジング・ルーム（ラウンジ）

玄関から左手に入った所は、やや細長いブラウジング・ルーム（ラウンジ）になる。（ピロティが無くなりラウンジに変更される）新聞・軽読書用雑誌・自由文庫等を配架。ロッカー、分類目録カードもここに配置。 [60.28㎡]

#### ③AVルーム（視聴覚室）

現在のAVルーム、ブラウジング・ルームは、個人視聴専用となり、現有4台のブースの他に6台を増設。合計10台のブース数になるので、今後は機器の空き待ちをしなくて済む。

また、次世代ホームシアターの核になると言われる新メディア「DVDプレーヤー」も、予算次第で設置する予定。 [39.56㎡]

#### ④演習室（グループ学習室）

ブラウジング・ルームの奥に3部屋の演習室が新設される。少人数の演習科目、卒業研究指導、サークルの話し合い等にも利用できる。（ビデオも設置予定）

また、3部屋はアコーディオン・カーテンで区切られるので、オープンにすれば多人数の会議も可能である。（この部屋は、原則として許可制にするが、前後期の試験前・試験中は開放して一般閲覧室として利用できるようにしたい）

[3部屋合計=55.9㎡]

#### ⑤手洗い（トイレ）

トイレが新設される。男女兼用2、男性用1、合計3のトイレができる。 [9㎡]

### ⑥書庫2階

書庫は既存の部分と増築の部分の2構成になる。一般図書（和書）は増築の積層書架に開架式で配架、既存集密書架には洋書・雑誌のバックナンバー・卒業研究論文・紀要等を収納。

書庫内にもキャレル・ディスク（1人用机）を20台程配置し、庫内図書の調査・閲覧に便宜をはかりたい。 [185.7㎡]

\*\* 1階フロア面積合計=368.44㎡ \*\*

### 3. 2階

#### ①閲覧室

既存の閲覧室西側（幼稚園側）に同一フロアで3スパン分（柱3本間隔分）が広がる。

現在の一般図書の位置には参考図書を背の低い書架で6列、その西側に一般図書（高書架）を6列配架し、増築部分の西窓側には4人掛け閲覧机を10台配置する。

吹抜階段の南側（現参考図書の位置）にも大型閲覧机（6人掛）4台配置。

キャレル・ディスクは南側窓際に東西に20台前後配置し、今まで狭く暗かった書架間の通路幅も1.5～1.8m空き、利用しやすくなる。

西窓側には、窓下用低書架に文庫・新書・絵本等を配架予定。

学術雑誌・視聴覚資料等は事務室の北西側にコーナーを設け、CD・LD・ビデオを移動する。カウンター回りには検索端末機を2～4台（将来増設含め）設置し、コピー機も東南に移動する。以前より広々とした閲覧室となり、面積的にも1.8倍になる。 [615.34㎡]

#### ②事務室

従来通り [44㎡]

\*\* 2階フロア面積合計=659.34㎡ \*\*

（全建築延面積=1136.98㎡）

現在の図書館が昭和55年に新築開館してから17年が経ちました。この間、国文科の増設、コンピュータの導入稼働と、今日の時代に即した図書館造りに努力を重ねてきました。

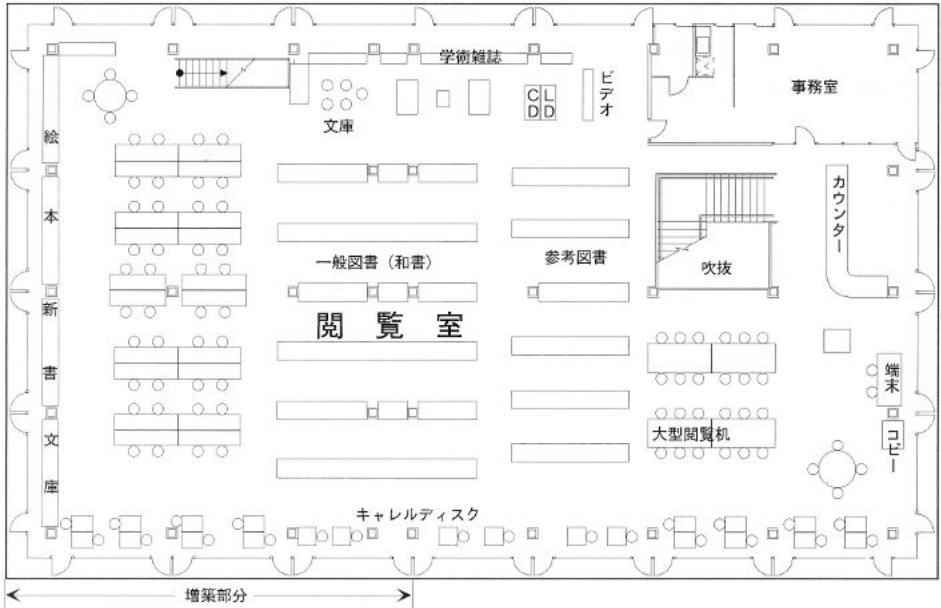
今また、ここに建物が大きくなり、蔵書収容力も倍増し、閲覧室も広く明るく、落ち着いた図書館になることは大変喜ばしいことです。

これからの図書館は、「出版物の電子化」「情報ネットワーク化」等に向かって課題も多く、様々なことに対処していかなければならないと考えます。学生の皆さんの有効な利用を大いに期待するものです。

（長張）

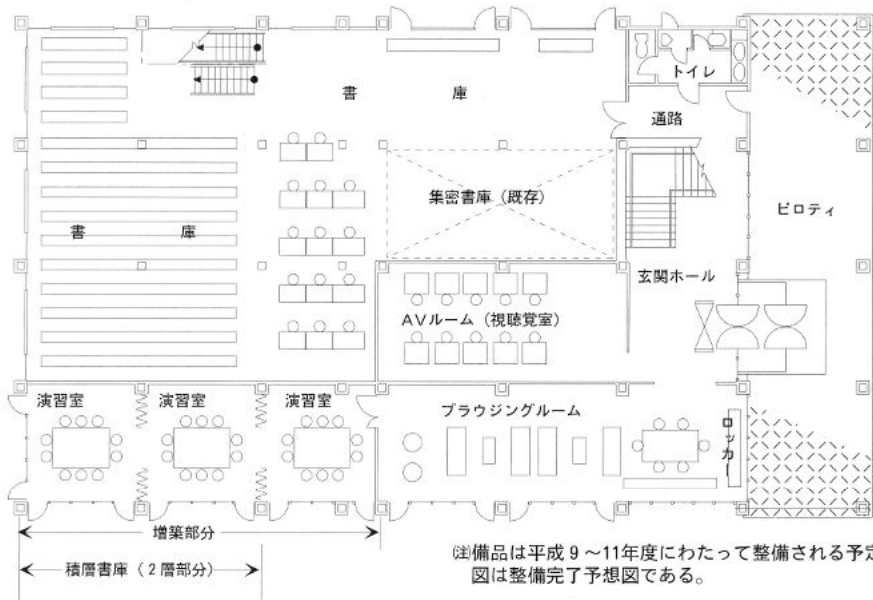
図書館増改築平面図

2F  
閲覧室



2階座席数=96  
1階座席数=61~71  
合計=157~167  
(現在の約2倍)

1F  
書庫  
AVルーム  
ブラウジングルーム  
演習室



※備品は平成9~11年度にわたって整備される予定。  
図は整備完了予想図である。

大学の先生方の  
新刊書

(平成8年中に発刊された、単独・共著・分担執筆) 一著者の五十音順

●『人間を育てる』

宣協社 二〇六〇円

天田邦子先生 分担執筆

●『基礎文章表現法』

朝倉書店 二二六九円

金子泰子先生 分担執筆

●『国語とは何か』改訂新版

東宛社 三二〇〇円

京極興一学長 著

●『子ねこのラブはみんなの天使』

金の星社 一一〇〇円

『お話の町へいしょつたい』

理論社 一五〇〇円

(前著)単独、後著)分担執筆

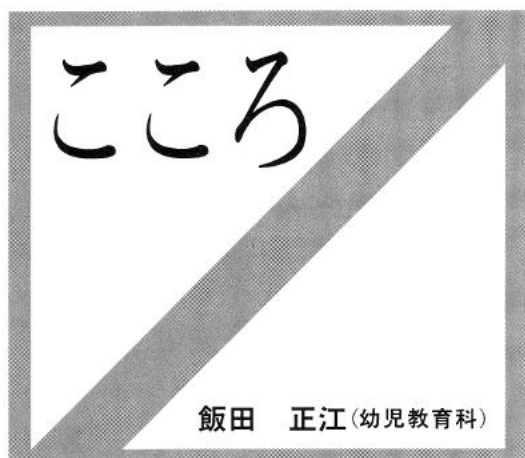
嶋田きみ子先生 著

●『私家集全釈叢書19千類集全釈』

風間書房 八二四〇円

西山秀人先生 共著

信濃子どもの本創作研究会に所属されている幼児教育科五十年卒業生の加々井美恵子さんは「みんなでおいでよおはなしひろば」(理論社一五〇〇円)の中に「キンピカコンとスカラカンのホーリーナイト」という作品を執筆され、発行しました。



三階の研究室から眺める風景は、三十年来見慣れてきたけれど、今年の秋は格別である。雨上がりの桜は、幹が黒っぽくはっきりと線を描き、そこに赤や黄が織り混ざった葉がみごとである。

クリエイティブダンスの授業でも学生達との紅葉を眺めに行った。そしてそれを舞踊の作品にしてみようということになった。

本学で、学生達と舞踊を創作し、発表会をし、三十年が過ぎた。その間私自身も創作舞踊に取り組み学んできた。

人はなぜ踊るのだろうか。エリー・ハーバース・シモンズは「何かが魂の琴線に触れ、不思議なおのきが手足を流れゆき、そして肉体という楽器が鳴り響き、動き出す時、人は踊るのである。」と述べている。私自身も、学生達も、そういう舞踊が踊れたであろうか。

マリー・ウィグマンは舞踊教授法の中で「初めは何でもむずかしい。またすべての初めの仕事は素晴らしいものである。しかし未だ、リズムカルな力学的ルールや、分析的かつ機能的な表現を含む舞踊の使命と、肉体運動の問題に関心も持たず、かつ、煩わされてもいない若い人の体からにじみ出る最も初期のぎこちない表現を、私はどんなに愛することか！あなたの生徒から、彼らの最も初期の表現を奪わないでほしい！というの、それらの中にあなたは、あなた自身

を発見するだろうから。そしてここで、あなたは最良の、そして最も早い方法で学ぶことになる。なぜならば、彼らは自分自身を語り、真実を告げているからである。」と述べている。

教員同志の会話で「私三十年もここにいるんです」と言うと、「良く、飽きなかったですね」と言われ、即座に「それが飽きるどころかおもしろかったのよ」と答えていた。今思うと、ウィグマンの言う通り、学生達の新鮮な感動や表現の中から、私自身学ぶことが多く、感動して過ごすことができたからだと思う、感謝で一杯である。

学生の琴線に触れた感動を次は肉体という楽器に動きとして表さなければならない。経験の少ない学生達の動きはぎこちなく、何度叱咤激励したことか。魂に触れた表現を、作品にまとめるには、形式、リズム、空間等々を追うことになり、大切なものをどこかに置き忘れてきてしまったような気がする。多くの学生達は創作し舞台で発表した。決して安易ではなかった全課程を通して、自分達の能力の全てを出し切り、色々なことを学び、満足してくれているようである。私もつい夢中になって大声を張り上げたことも多く、時には学生の「心」を傷つけたことであろうと思うこの頃である。

そして三十年の作品のテーマを見ると、その時代を映すものや、定番のテーマもあるようである。

今年の学生の舞踊テーマに「葉害」と「ポケベル」があり、時代を映していて興味あるものだった。葉害の恐ろしさ、ポケベルの軽快な楽しさが表現されていた。ここ5年間のテーマには、花粉症・核戦争・エイズ・麻薬・炭酸飲料水・土石流・地震・地殻変動・骨粗鬆症・護美・

「美しい魂」(書齋)もあやふ

空缶等がある。阪神大震災があり、又、護美問題も大きくクローズアップされると即、それを取り入れる。地殻変動や地震は大きな群舞で、迫力ありその恐ろしさを感じた。護美は10人の群舞で、護美の山が色々な形にどんどん積み重ねられていたり、空缶がポイと投げ捨てられ、最後はむなしくペッチャンコにつぶされたり、学生の若い感性が面白かった。

作品にする場合、どうしても、創作しやすい、まとめやすいテーマを選ぶことになる。そうすると「地獄・ばい菌・闇」等暗いテーマが多くなってしまった。「美しい魂」の表現である舞踊がそういう方向に向かっていったようであると反省している。学生達の初めの新鮮な感動を美しい舞踊として表現するにはどの様に指導したら良いのだろうか。

七月九日、父が静かに眠るようにこの世を去った。父はどこへ行ったのだろうか。人が亡くなると他界したというのが、どこへ行ったのだろうか。

私が今ここに生きているということは、私の父がいて祖父がいてずっと生きてきたからである。長い年月の間には、戦争や、災害や病気の流行等色々あったことであろう。その中で生き抜いてきたからこそ、今私はここにいる。考えてみるとこれはすごいことだと思う。そして私の後に娘と息子が繋がっていく。このような繋がりを考える時、環境が悪化して地球は滅びるとか、O-157とか狂牛病とか不安な時代である。十日のNHKスペシャル「スーパー病原菌の脅威・揺らぐ抗生物質治療」を見た。「VRE」という病原菌は人類が開発した抗生物質のどれもきかないという恐怖の菌だそう。次々

に得体の知れない病気が出てきている、これはなぜだろう。

このことについて世永育子氏は興味深い話をしている。氏は「過去の先祖たちが一生懸命遺伝子の中にこうやって生きるんだよという生きる術を記憶させてくれた。簡単にいうと自然治癒力の能力はすごい。それらを生かしていくことが大切」だと結論づけている。

また、春山茂雄氏は「脳内革命」の中で、「人間の心の使い方が問題で心の働きがそのまま物質化されて体内で作用する。いつも明るく物事を前向きにとらえていると、脳内に脳細胞を活性化し体を元気づけるホルモンが出る。人間は、高次の要求を実現できた時ほど快感を増すようにつくられている。人間は遺伝子という形で神様が理想とする健康、長寿、幸福を与えようとするメカニズムを体内に組み込まれている」と述べている。

舞踊は体を駆使し、空間運動で表現するが、まず、心が働き、身体を動かし、運動を創る。表にあらわれるのは身体の運動であるが、舞踊創作の全過程で心が動き、心を育てているといえる。

学生は全力を尽くして舞踊の発表会を終えた時、春山氏の述べている高次の要求を実現できた時の大きな快感を味わい、感動していた。

さてこれからも、本学のこの美しいキャンパスで、学生と共に、大いに心を動かし、通い合わせ、磨き合って、さらに、魂の美しい舞踊を創作したいものである。(教授)

[参考文献]

- オイリュトミー 高橋巖(監修) 泰流社  
 波動の革命 江本勝 PHP  
 舞踊の表現 マリー・ヴィグマン著 河井富美恵訳 大修館  
 脳内革命 春山茂雄 サンマーク

## 『ふみよみ(読書)』の楽しみ

中西満義(国文科)

先般、「宣長と秋成の歌」と題した講演を拝聴する機会がありました。それは、和歌文学会第四十二回大会の公開講演の一つで、浅野三平氏(日本女子大学)によるものでした。本居宣長(1730-1801)といえば、『古事記伝』『玉くしげ』の著述をはじめとする近世期国学の大家として、一方、上田秋成(1734-1809)といえば、『雨月物語』『春雨物語』などの読本(よみほん)作家として、それぞれ著名ですが、両人はまた、多くの和歌を残しています。浅野氏の講演は、両人の詠草の中から十首ずつを抜き出して、それらを対比させつつ宣長と秋成の資質の違いを指摘してゆくもので、さすが『秋成全歌集とその研究』の著者と感心しつつ、時間の経つのを忘れて聴き入ってしまいました。

浅野氏がその折りにお示しになった和歌による十の番(つがい)は、いずれも、同時代を生きながらもまったく対照的な生涯を送った宣長と秋成の資質の違いを鮮明に浮き彫りにするものでしたが、その中の

- A 書(ふみ)よめばむかしの人はなかりけり  
 りみな今もあるわが友にして
- B ふみよめば絵をまきみればかにかくにむかしの人のしのぼる哉(かな)

という、本(古典籍)に向かう姿勢の相違を窺わせる和歌の対比にも少なからぬ興味を覚えました。ここでは、上掲の和歌を端緒として、「ふみよみ」すなわち「読書」の楽しみについて、いささか思うところを記してみたいと思います。

さて、ともに「ふみよめば…」ではじまるA B歌、Aが宣長の歌、Bが秋成の歌です。Aの宣長歌は、上手とは思われませんが、ずい

ぶんと大胆なことを言っています。作者が宣長ということであるほどと頷いてしまいますが、かりにこれが別の人の歌であったならば、まったく違った印象を与えることと思います。ともあれ、宣長は読書をするとう人はいないと言うのです。なぜならば、本を通して出会った古人はみな膝突き合わせて話をする友となるから、と言うのです。Aの歌からは感受性の強い直観的学者・宣長といったイメージが浮かび上がってきます。それに較べると、Bの秋成歌は奥ゆかしいことを言っています。本を読むと、また絵巻などを広げてみると、あれこれと古人のことが恋しく忍ばれる、と言うのです。「ふみよめば」に続けて「えをまきみれば」と継いでいるところや、自己と対象との間に一線を画しているところに秋成らしさを感じますが、宣長の歌を先に読んでしまうと、何か物足りないものを覚えます。

「みな今もあるわが友にして」と言い切る宣長のように時空の隔たりを乗り越えて古人を今ある友と感ずるか、あるいは、秋成のように古人を静かにしのぶか、その違いはここではさして問題ではありません。知識を得るといった実利を超えた楽しみなり、喜びが「ふみよみ(読書)」にはあるということの好例として宣長と秋成の歌を取り上げたのです。

宣長と秋成の歌を持ち出したついでに、「ふみよみ」の楽しさを詠んだ歌を近世期の歌集から紹介してみましょう。

- C ふみみればむかしの人をともし火のはなにぞちぎるよるはすがらに  
 (惺窩集・二一五)
- D ふみ見ればたのしかりけりいそのかみふりにし世世の友をあまたに

(うけらが花・一三一一)

「灯花(火)」と題した藤原惺窩(せいか)の歌も、「ふみ」と題した加藤(橘)千蔭の歌も、表現の仕方は異なりますが、ともに

ひとり燈火(ともしび)のもとに文(ふみ)  
をひろげて、見ぬ世の人を友とするぞ、  
こよなう慰むわざなる。(下略)

という、『徒然草』(第十三段)における吉田兼好の言葉に通ずる「ふみよみ(読書)」の楽しみを詠んでいます。

このように、読書という行為をとおして、古人を友と感じ、その見ぬ世の友と対話を楽しむということが「ふみよみ(読書)」の最大の楽しみではないかと思えます。

灯火親しむべき候、秋成のように昔の人をしのぶのもよし、また宣長のように時空の隔たりを乗り越えた友と膝つきあわせて対話するもよし、いずれでも結構、かれらが実践したような「ふみよみ」とおして、かれらが感じたような「ふみよみ」の楽しさを自分のものとしてもらいたいと思えます。

蛇足ながら、Aの宣長歌は、かれの和歌作品を年代順に収めている「石上(いそのかみ)稿」では、「ふみよみ百首」と詞書された一群に収められています。そこにはA歌のほかにも面白い歌が多く収められています。

E をりをりにあそぶいとまはある人のいと  
まなしとて書よまぬかな

F 酒のみてうたひまひつつあそぶより書よ  
むこそはよにたのしけれ

など、読むと耳の痛くなるような歌もあります

G よまねどもやまともろこしもろの書  
をあつめておくもたのしみ

などに出会うと、わずかに慰められた気にもなります。

「ふみよみ」の楽しさを感じ、たゆむことなくそれを実践した宣長という大人を知るためにも一読されることをお勧めしますが、最後に私自身の銘としてつぎの歌を掲げて小文を閉じようと思います。

H ゆきゆけばつひにはいたりつくものぞふ  
み見る道はあしおそくても

注)「ふみよみ百首」は寛政十二年(庚申)の作。寛政十二年の翌年は享和元年、この年の九月二十九日に宣長は没していますから、A歌は宣長七十一歳の、つまり死の前年の作であるわけです。また、百首とあるものの、実際は六十七首しか収められていません。なお、A歌はかれの代表的な歌文集『鈴屋(すずのや)集』にも「書よむうへの事どもをくさぐさ思ひつづけける歌ども古風にはあらねどここについつ」という題詞が付された六十八首中の一首として収められています。

(助教授)



## 絵本との出会い

私は、この短大に入り幼児教育を勉強するようになってから、絵本に興味をもつようになりました。本屋へ行くと必ず絵本売り場へ行き好きな本を探しています。今は、私達が子どもの頃にはなかったような仕掛け絵本がたくさんあります。見て楽しみ、読んで楽しみ、さわって楽しみ、聴いて楽しみ、一つの絵本で様々な楽しみ方ができるようになりました。そして赤ちゃんには、しゃぶっても破れないような、布でできた絵本もあります。絵本の世界は限界を知らず、どんどん広がっていきます。

私は小さい頃から絵本が好きでした。と言うよりも、母に読んでもらう事が好きでした。夜寝る前には必ず一緒のふとんの中で、母に絵本を読んでもらった記憶があります。確かに、絵本の中にはお気に入りの絵本はありましたが、その事よりも、母と一緒にいてもらえて、母の声がすぐ横から聴こえてくる事がとても心地よくて絵本が好きだったような気がします。今は、まだ字の読めない子どもでも、一人で楽しめるような絵本があります。そのような絵本は、その子自身の興味を深めたり、よいところはたくさんあると思いますが、お母さん達が、やさしく読みきかせてあげる絵本も忘れてはいけません。字を覚えさせるためだけに、言葉を覚えさせるためだけに絵本はあるのではないと思います。まずは、本の内容よりも、お母さんと一緒にいられるという安心感を、絵本の読みかせを通して大切にしないではいけません。

今、こうして大人になっても、絵本を読むと、ふっと、安心した気持ちになれるのは、そうした幼い頃の出来事から、自然に身についたものなのかもしれません。

絵本には、人の心を優しく、あたたかくする力があると思います。何か苦しい事があった時、悲しい事があった時、一人で自分の好きな絵本をそっと開いて読んでみると、ふっとその絵本の中に引き込まれてしまうような不思議な気分になります。そして、自分がその絵本の中の主人公になり、夢を追いかけて始めます。少しずつ気持ちがあたたかくなってきて、少しずつまた前に進めるような気がしてきます。

絵本の中には、人間たちの夢や希望がつまっています。私達には不可能な事でも、可能にしてくれます。そのような絵本と出会い、何かを感じた時、人生の中での素晴らしい経験の一つになると思います。

私が最近出会った絵本で、「The missing piece」という本があります。これは、自分に足りないかけらを探して旅に出る話です。かけらを探している時は、様々な友達に出会い、いろいろな事に出会います。苦しい事もあるけれど、とても楽しい時間を過ごします。しかし、いざそのかけらが見つかってみると、全てつまづく事はなくなりましたが、同時に友達と出会う事もできません。結局は何かを求め追いかけている時が、苦しくても一番楽しい意味のある時なのです。私は、この本を読む度に、自分のペースで自分を探していこうと思います。今の私の心の支えになっています。

絵本は、年齢に関係なく、人の心に様々な影響を与えてくれます。自分の心が疲れた時に安らかにしてくれるような、そんな絵本に出会えるといいと思います。



# 『海と毒薬』 とわたし

国文科2年 米山いづみ

最近、作家の遠藤周作が逝去した。遠藤周作と言えば、キリスト教を題材にして、キリスト信仰における日本と西洋との宗教思想の違いや神とは何であろうかという永遠のテーマを描いた『沈黙』や、終戦時の大学病院で起きた凄惨な事件を題材にして、人が人を生体解剖するという恐ろしさや罪悪感のない日本人の無気味さを描いた『海と毒薬』などが有名である。その他にも、『白い人・黄色い人』、『死海のほとり』など数多くの作品がある。

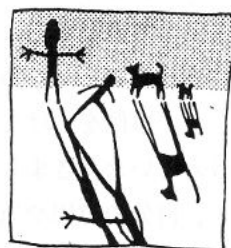
ところで、私が初めて遠藤周作の本を手にしたのは、高校二年の時で、『第二怪奇小説集』というものだった。その頃の私は、暇さえあれば読みやすい、好きな作家の本だけを読むという偏った傾向があり、自分が少しでも興味が持てないものは、あまり読まなかった。そのため、遠藤周作などのいわゆる純文学の作家の作品は、ほとんど読まなかった。

しかし、そんな私が遠藤周作の本を次々に読むようになったのは、ある友人の影響である。初めのうちは、しぶしぶと読み始めた私だったが、『第二怪奇小説集』の雰囲気惹かれたのか、読み進むにつれて、おもしろくなり、すっかり気に入ってしまったのだ。それは、きっと長編小説と違って、手短かなミステリアスな話がいくつもおさめられている上に、遠藤の作品としては、娯楽性の強いものだったからであろう。また、一つ一つの話の内容も親しみやすかったからだと思う。(後に読んだ「第一」にあたる『怪奇小説集』の方もとても良かった。)

私は、友人がすすめたこの本をきっかけとして、遠藤のより純文学的な作品にも目を向けるようになり、次に読んだのが、『海と毒薬』であった。しかし、その本は、初めに読んだ怪奇

小説とは全く質の違う、重々しく、息苦しい内容だった。それは、戦争末期に起きた米軍兵の生体解剖事件そのものが恐ろしいというよりも、その事件を起こした医者や看護婦の罪の意識の不在が恐ろしかったのだ。戦争中ということもあって誰もが死と瀬戸際のところで生きていたとはいえ、本来なら人の命を助けるべき医者、看護婦が自らの手で他人の命を奪っていいはずがない。私は、この本を読んだ後、とてもやるせない思いでいっぱいになった。とても後味が悪かった。

今まで読んだ本の中で、『海と毒薬』が一番強く印象に残っている。それは、衝撃的な内容のためであろう。しかし、私のように戦争を知らない世代、豊かで平和な現代の日本に生まれた子供たちにとって、戦争の恐ろしさを知るために『海と毒薬』のような医学界から見た戦争も知っておくべきだと思った。私は、事件を起こした医者、看護婦は、戦争によって、異常心理が生まれてしまった被害者だと思う。戦争が人の精神まで侵してしまったと思うのだ。そのことから、私にとって、遠藤周作は、「戦争」について考えさせてくれた尊敬する作家だと思っている。



## 児童文化研究大会に参加して

幼児教育科1年 沓掛千春



本学幼児教育科の大きな行事である、この児童文化研究大会について、私は当日まで殆どよくわかっていませんでした。でも、終えてみて、科を挙げての行事だということがよくわかった気がしています。

よくわかっていないなりに、分科会の選択は自分なりにしっかりできたと思います。私は第二分科会「子どもの心を見つめて」という、未満児保育の実践を通しての話を聞きました。私は卒業後、幼稚園教諭か保母になりたいと考えていて、今回の分科会もそれに参考になる近いものが良いと思い、この第二分科会を選んだのです。

分科会では、未満児保育園の現場で働く保母さん達が、実際どのような保育をしているのかを、映像で見せてくれながら説明を加えてくださいました。とてもわかりやすく、勉強になりました。事例をあげて、子どもの心を知ることが教えていただきました。まだ十分に言葉が使えず、自分の意思や気持ちを子ども達は行動で表すという当たり前だけれど忘れてしまいがち

な、とても大切な事に気付きました。その分、未満児ひとりひとりの行動、目や手の動きまでに気を配らなければいけない、大変だけれどもやりがいのある仕事だと思いました。

午後の「自然からのメッセージ」という、宮崎学先生の講演では、自然とその中を生きる私達生物のつながりを知りました。先生の貴重な写真を見せてもらいながらの話は、とても現実的で、見入ってしまいました。先

生の言う「自然界の報道写真家」ということがよくわかりました、何気なく時間を過ごしていた私達にとって、はっとさせられた時間でした。宮崎先生のように、私達に大事な事を思い出させてくれる人は沢山いて欲しいけれど、本当は私達自身で気付いていかなければいけないと思っています。

宮崎先生の講演の中で、「自然に保護されているのは私達」という言葉が一番印象に残っています。自然保護なんて軽々しく言っている私達人間を恥ずかしいと思いました。その先生の言葉をいつまでも忘れないようにしたいと思います。そして自然にいつでも感謝したいと思います。



## 童話賞を受賞して

藤 崎 香 織 (国文科平成6年度卒)

去年の夏、P&G『第四回ヴィックスヴェポラップおやすみ童話集』に応募した「羊かぞえ」が優秀賞を受賞することが出来た。自分自身、そのことについて振り返ったことがないので、この場を借りて書いてみたいと思う。

初めて買った公募雑誌でその賞を見つけ、原稿用紙四枚という手軽さと、その割に高額な賞金につられて応募することにした。締切りぎりぎりに慌てて書いて出し、すっかり忘れていた頃、受賞の連絡があった。受賞までの流れというのは、おおまかに書くとそんなところだ。

それまで童話など一度も書いたことがなかった。どう書いていいかもわからなかったが、一から勉強する時間も気力もなく、とにかく好きなように書いた。人が私の童話を読んでどう感じるかは分からないが、私は受賞した童話をふざけた話だと思っている。メルヘンをかいたつもりはこれっぽっちもない。なんだか奇妙な童話。私は頭に描いていたのはそんな童話だった。

今にして思うと、何かを伝えたいとか、童話はどうであってはいけないとか、肩肘張らずに書いたことがよかったのかもしれない。そういうものはきっと、子供にとってつまらないものだろう。そして童話にもかかわらず、私は全くといっていいほど子供を意識せずに書いた。むしろ大人に読んでもらいたかった。選ぶのは大人だというずるい考えもあった気がする。

そんなふうにして書いた童話を受賞した。私の思い描いていたふざけた童話を書けたゆえのことと考えたいが、運、というのも大きかったように思える。したがって、創作について、などとえらそうなことはとても言えない。私が教

えてもらいたいくらいだ。けれどそんな私でも信じていることはある。それは、自分の作品を好きになるということだ。

自分の書いた作品を好きにならなければいけないし、好きになれるものを書かなくてはいけないと思っている。自分の書いた作品を好きになって初めて、物語は色を持ち、登場人物は命を持ち、動き出す。作品に対する気持ちというのが、物語の出来を大きく左右するように思える。

そしてもう一つ。わたしが作品を書くにあたって心掛けていることがある。背伸びをしない、ということだ。大きなテーマを実力が伴わないままに書いても成功するとは思えない。うまく書こうと力まず、自分らしく書く。それが大切なように思える。その二つを心掛けたおかげで受賞出来たとさえ感じている。

童話を受賞したと知った時はやはり嬉しかった。が、想像していたような感動というのはそれほどなかった。わりとクールに受け止めていた。ただ、それまでしてきた「書く」という行為が、その時初めて報われた気がした。これからは書いていける。強く心にそう思った。書くことに対しての自信を得ることが出来た。賞よりももっと大きなものだと思っている。



## 〔図書館ニュース〕

### 図書館にタッチパネル式検索機増設



後期から図書館に利用者用検索端末機が1台増設されました。この端末機は銀行のキャッシュコーナーのような「タッチパネル式」で、ディスプレイを指で触れるだけで検索ができます。

ここで、数点注意してほしい事柄を記します。

**1** 簡単な設定で検索する方法と検索対象を選択する方法がある。

「簡単検索」とは、対象資料や、項目を選ばないで、いきなりキーワードとなる文字列を入力するだけで検索する。(全資料横断検索)  
「検索対象を選択して検索」は、各資料区分や、項目を限定して検索するやりかたです。

**2** 分類番号からの検索は5号機で。

この「タッチ式」は図書館学を知らない人にも、いかに早く楽に検索できるかという点に重点をおいて開発されているので、分類番号からの検索ができません。5号機のパソコンで従来通り検索してください。

**3** 検索結果の印刷は遅いですから、実行を押したら、しばらく待つ。

このプリンターは、ページプリンターですの

で、1頁分データを蓄積してから出てきます。しばらく待っていると出ますから、慌てないでお待ち下さい。

**4** CD-ROMの検索演習後は、勝手に終了させない。

和歌文学関係の演習で、利用した後は通常の図書館データの検索画面に戻さなければなりません。この時、終了してコンピュータの電源まで落としてしまう人がいます。

必ず係に終了したことを報告し、勝手な操作をしないで下さい。

以上、何点か注意してほしい点をのべました。パソコンは慣れれば難しいものではありません。大勢の人がもっと利用するようにしましょう。(N)

## わたしのパートナー

司書 吉池理恵

本と私は大の仲良しだ。本に子守をされ、本に育てられ、本を片手に成長してきた私は、心から本を大切に思っている。

そんな私が、図書館で働けると決まった時、どんなにうれしかったかはお想像していただけるだろう。

本と私はこれからもお互いをより良きパートナーとして長く一緒に歩いていこうと思う。皆さまどうぞよろしくお願いいたします。

### おしらせ

本号は、増改築特集号としたので、「あなたへの一冊」「図書館ガイド」は休みました。

## 編集後記

本年も早くも12月を迎え、例年の如く、図書館報「みすず」をお届けします。本年は図書館の増改築が計画されるという明るいニュースを中心に、飯田先生の「こころ」、中西先生の「ふみよみの楽しみ」をはじめ、学生・卒業生の皆さんの声を掲載できありがとうございました。

(丸山)

**みすず** 上田女子短期大学附属図書館報  
第23号 1996.12.発行

編集 上田女子短期大学図書委員会  
発行 上田女子短期大学附属図書館

〒386-12 長野県上田市下之郷620  
TEL. 0268-38-2352  
FAX. 0268-35-7315